



## 東部育種事業区の

### 育種計画と組織

#### A 育種計画と造成現況

日本の林木育種が事業的規模で歩みはじめて今年で満10年、當場も実質的に10年目をむかえた。精英樹の選抜から始まった育種事業も、アカマツ採種園からは小規模ながら素質のよいタネもとれはじめ、またスギさし木クローンも極めて発根率のよい個体がネズミ算式に殖えている。

林木育種は農作物や家畜等の品種改良にくらべ、非常に長い時が必要だと判っているながら、ともすればあせってみたり、壁にぶつかりながら、作物や果樹に学んで歩きつづけてきた。発足当初作物育種の実践家に林木育種の概要を説明したら、農業ではそのような選抜育種は60年も前にやったことだ、林業は今頃何故そのようなことをやるんだ、虫とか病気に強い品種を創り出すべきだ、随分時代おくれた、など言われたこともあった。しかし林木育種に限らず、育種は選抜育種から始まっているいろいろの育種法にすすんでいるはずだと思っている。

九州地方にはスギ地方品種もあるが、東北には人為的に操作された品種的なものはないし、気候的にも恵まれないので、本当の意味の事業化に至るにはなかなか容易でないと思っている。しかし東北地方には育種母材料としてアカマツやスギの優良天然林が残っているので、この点は恵まれた立場にあると思う。しかしそれも上手に利用しなければ、宝の持ちぐされになることであろう。

#### 1 計画の基本

育種基本区は福島県をのぞく東北5県と新潟県が入った国有林、民有林約460万haが対象で、極めて大まかで常識どおり表側の3県を東部、裏側の3県を西部育種事業区として、計画や事業の実行をすすめている。

最終目標は品種改良による森林生産力の増大にあることは言うまでもないが、まず現在の精英樹(特殊個体も含めて)をもとに、(1)成長量の増大、(2)樹形の改良、(3)耐寒耐雪耐病虫害性の向上、そして外国樹種の導入が行われている。これらを達成するため関係各機関と協力相

ずさえてすすめ、その第一段階として育種場では、場内の樹木園に精英樹クローンを植栽し、原種の保存と特性調査を行ない、本命である次代検定林用のタネやさし木の穂木をとるため、採種園、採穂園を造成すると共に、各種の技術体系をみいだすため、試験調査の場を設定している。また各県、名営林局管内に設定される原種苗畑に原種の一部を配布し、それらの増殖によって一般造林用に供給される仕組になっている。

これらの精英樹の中には、遺伝的にさほどすぐれていないものも含まれていると思うが、それでもこれらの集団が、現在の自然集団におきかえられた時は、いままでの集団にくらべ、相当すぐれたものになると思われるし次代検定で劣った系統を発見除外することによって、更らに相当の改良が期待される。その後の育種法は前号の技術解説のとおりすすめられるはずである。

#### 2 計画と現況

東部育種事業区における現行育種対象樹種と、その計画について述べると。

- 1) さし木による採穂園 スギ(ヒバ)
- 2) つぎ木による採穂園 アカマツ、クロマツ、カラマツ、スギ、ヒバ(ヒノキ) その他一部広葉樹

各機関においては昭和60年以降育種された造林材料によって100%造林を行ない、林力増強に資することになっている。造成の進度あるいはその後の管理育成の巧拙が、将来の造林に大きくひびくことになるので、納得のいく施業をし、その効果を十分に発揮したいものである。

当区における造成現況と年次計画は次表のとおりで、造成進度は樹種によっては100%完了のところもあるがスギ、アカマツの採穂園は全国平均程度で他は平均以下であり、特にスギ採穂園はさし木の発根率の問題ともからんで、今後一層の努力を要する現況である。

民有林については、44年度をもって台木整備事業費以外は補助事業として打ち切りの方針で、その後の増殖造成は県単独事業になるので、目標年度までに設定を完了するようすすめている。また生産される種苗の系統管理の正確を期すため、当分の間採種園、採穂園は公営の線を堅持している。

国有林については、林野庁の方針として、45年度で設

定を完了することになって  
いるが、青森局の事業用採  
種圃は事業化できるスギさ  
し木クローン数の関係もあ  
り、1年位繰延べざるを得  
ない現状でこの点苦慮して  
いる。

なおカラマツ採種圃は諸  
種の事情で43、44の両年度  
にその $\frac{1}{2}$ を設定し完了する  
計画である。

B 組織と係の紹介

育種事業をすすめていく  
ための細部の事業計画、実  
行指導等については本場は  
東部を、支場は西部育種事  
業区を担当している、本場  
は3課7係、支場は2課6  
係となっている。そのうち  
直接関係のある経営課、原  
種課について少しく紹介す  
ると、経営課は経営、種苗  
両係があって、主としてク  
ローンや外国樹種を対象に  
栽培造林、種苗事業の業務  
が大部分で、経営係は育種  
場用地の使用計画と、これ  
に伴う樹木園、採種圃の造  
成管理と、育種計画による  
関係機関の採種圃の造成  
計画や実行のチェック、設  
定用地の相談、育成管理に  
ついての話しあいやこれら  
の技術指導の窓口になって  
いると共に試植、次代検定

林の実行にあたっている。種苗係はクローンの増殖配布  
と調整、育種母材料の養苗と、これらの増殖や外国樹種  
の育苗に伴う技術指導が主な仕事であり、さし木、つぎ  
木の実行方法等事業的規模において相談の窓口である。  
クローン、穂木、苗木、タネについての計画、実行はこ  
の係の仕事である。原種課は精英樹の選出、育種母材料  
を収集して優良品種を創成すること、育種の調査研究に  
従事すると共に、精英樹の検定調査をすることが、主な  
仕事である。この課も2係制で原種係は基本区、育種区  
についての計画策定と精英樹の選出（特殊個体）や育種  
母材料の収集、樹木園、採種圃の設定計画ならびに調  
査研究、資料の収集が主なもの、精英樹、遺伝子保存  
林についての窓口でもあり、採種圃の設計と採種圃の

東部育種区における育種計画

樹種	機関名	長期造林計画にもとづく		山行苗木の区分		所要苗木生産のため		備考				
		1カ年平均造林面積 ha	山行苗木所要数 総所要数	さし木苗 比率	みしょう苗 所要数	採種圃造成面積 ha	採種圃造成面積 ha					
スギ	青森局	4,953	4,200	20,808	40	8,323	60	12,485	49.40	22.00	1 1カ年平均造林面積は長期造林計画の5～10カ年間の平均からS60年以降の人工造林面積を推定した。	
	青森県	1,760	3,500	6,160	20	1,232	80	4,928	5.00	10.25		
	岩手県	4,385	3,450	15,128	20	3,026	80	12,102	10.80	26.70		
	宮城県	3,380	3,650	12,337	30	3,701	70	8,636	15.43	12.34		
	計	14,478	14,800	54,433	30	16,282	70	38,151	80.63	71.29		
アカマツ	青森局	3,116	5,000	15,580			100	15,580		17.30	2 採種圃造成面積はha当りさし木山行生産量を17～28万本としての計画である。	
	青森県	660	4,000	2,640			100	2,640		6.00		
	岩手県	3,300	4,200	13,860			100	13,860		16.00		
	宮城県	1,578	4,438	7,003			100	7,003		7.00		
	計	8,654	17,638	39,083			100	39,083		46.30		
カラマツ	青森局	2,970	3,000	8,910			100	8,910		26.00	3 採種圃造成面積は採種圃よりタネの生産量を30～50kgとし、各樹種の1kg当り山行実収を基礎として算定した計画である。	
	青森県	550	3,000	1,560			100	1,560		4.50		
	岩手県	3,300	3,150	10,395			100	10,395		14.00		
	宮城県	55	3,200	176			100	176		1.00		
	計	6,875	12,350	21,041			100	21,041		45.50		
クロマツ	青森局	411	5,122	210			100	210		3.00	4 青森局のクロマツは育種場内次検用採種圃よりタネを利用する。	
	青森県	330	4,000	1,320			100	1,320		0		
	岩手県	0	0	0			100	0		0		
	宮城県	49	4,438	217			100	217		0.37		
	計	420	9,560	1,747			100	1,747		3.37		
ヒノキ	青森局	36	3,650	131			100	131		0.50	5 青森局のヒノキについての育種計画は目下検討中である。	
	宮城県											
コバノヤマ	青森局	110	3,000	330			100	330		1.00		
その他	青森局	220	4,200	924			100	924		0	ヒバ、トドマツ、外国樹種その他広葉樹	
	宮城県	394										
	計	614										
東部合計		31,187		117,689				16,282		101,407	80.63	167.96

東部育種区における採種圃の造成現況と年次計画

樹種	関係機関	採種圃別	造成目標	41年度未進行		今後の計画					備考	
				現在	比率	42	43	44	45	46		
スギ	青森局	採種圃	22.00	14.10	64	5.90	2.00				7.90	1 41年度未現在には1部年度末事業の分を含む。 2 今後の計画は11月末調査会選における資料で、育種計画策定時の年次計画は修正されている。 3 宮城県において前表の育種計画と本表の造成目標の不一致は採種圃面積は1団地0.50ha以上で造成することになっていること、kg当り生産量を増加することによって各樹種のバランスをとった場合は造林計画として支障ない。 4 育種場の〔〕面積は寒害のため廃棄した面積である。 5 採種・樹園ha当りのクローン樹本数は スギ採種圃 4,000～6,000本 スギ採種圃 1,600本 アカマツ〕 800本 クロマツ〕 8.43 カラマツ〕 625本
			10.25	2.00	20	2.00	3.00	3.25			8.25	
			26.70	12.70	58	4.00	5.00	5.00			14.00	
			11.11	6.00	54	2.00	2.00	1.11			5.11	
	計	73.75	38.49	52	13.90	12.00	9.36			35.26		
アカマツ	青森局	採種圃	17.30	8.73	50	3.00	5.57				8.57	3 宮城県において前表の育種計画と本表の造成目標の不一致は採種圃面積は1団地0.50ha以上で造成することになっていること、kg当り生産量を増加することによって各樹種のバランスをとった場合は造林計画として支障ない。
			6.00	6.00	100						2.00	
			16.00	14.00	98	2.00					0.30	
			6.30	6.00	95	0.30					0.30	
	計	4.46	4.46	100						10.87		
	計	50.06	39.19	78	5.30	5.57				18.05		
カラマツ	青森局	採種圃	26.00	7.95	31		9.00	9.05			18.05	4 育種場の〔〕面積は寒害のため廃棄した面積である。 5 採種・樹園ha当りのクローン樹本数は スギ採種圃 4,000～6,000本 スギ採種圃 1,600本 アカマツ〕 800本 クロマツ〕 8.43 カラマツ〕 625本
			4.50	4.50	100						2.00	
			14.00	14.00	100						18.05	
			1.00	1.00	100						18.05	
	計	6.56	6.56	100						18.05		
	計	52.06	34.01	66		9.00	9.05			18.05		
クロマツ	青森局	採種圃	3.00	1.00	33	1.00	1.00				2.00	4 育種場の〔〕面積は寒害のため廃棄した面積である。 5 採種・樹園ha当りのクローン樹本数は スギ採種圃 4,000～6,000本 スギ採種圃 1,600本 アカマツ〕 800本 クロマツ〕 8.43 カラマツ〕 625本
			0.50	0.50	100						2.00	
			0.50	0.50	100						2.00	
			4.00	2.00	50	1.00	1.00				2.00	
	計	0.50	0.50	100						0.50		
	計	180.37	113.69		20.70	27.57	18.41			66.68		
スギ	青森局	採種圃	49.40	8.62	17	1.67	2.50	6.34	11.80	18.47	40.78	4 育種場の〔〕面積は寒害のため廃棄した面積である。 5 採種・樹園ha当りのクローン樹本数は スギ採種圃 4,000～6,000本 スギ採種圃 1,600本 アカマツ〕 800本 クロマツ〕 8.43 カラマツ〕 625本
			5.00	2.00	50				3.00		3.00	
			10.80	2.00	19	2.00	2.00	2.00	2.80		8.00	
			15.43	7.00	45	1.00	3.00	4.43			8.43	
	計	1.50	0.99	66	0.40	0.11				0.51		
	計	82.13	29.61	25	5.07	7.61	12.77	17.60	18.47	61.52		

基礎研究や資料のとりまとめ等に従事し、各機関に協力  
して技術の指導にあたっている。検定交配係は交雑に関  
する調査研究、次代、試植検定林の設定計画および調査  
が大きい仕事で、精英樹クローンの検定優良品種の創出  
とこれに伴う技術指導にあたっている。次代、試植検定  
林の用地の問題、精英樹の特性調査、交雑を主体とした  
仕事の窓口であると共に、これらの調査研究をすすめ技  
術指導にあたっている。

以上を総括的に本場の姿をみると、育種全般の計画の  
策定と研究調査は原種課で行ない、事業化できる段階に  
おいて事業的規模で経営課が実行することになる。

この会計は国有林野事業特別会計に属しているので事  
務の仕組は全く国有林と同じである。（高橋直治）

## 技術解説

### Ⅱ 選抜育種

#### Ⅱ-1 精英樹とその選抜法

##### 1 精英樹とは

育種場が発足してから早や10年になろうとしている。今さら選抜の技術解説でもないとは思いますが、林木の育種は精英樹選抜による育種が根底をなしている関係もありまた技術解説の順序からも、更に今後も「よい木」を選ぶ仕事が続くはずなので選抜からはじめることとする。

精英樹とは、ごく常識的に考えて「よい木」つまり、伸びも太りもよく、むやみに枝も張ってなく、姿もみごとで、しかも病虫害にかかってない木のことである。われわれが林の中を歩いていて、一点の非のうちどころもなく全く美事で、ほれほれする木に出くわすことがあるが、それが精英樹である。人間に例えれば、頭脳明せきて、ハンサムで、スマートで、性格的に円満で、何をさせても人並以上にできる人がこれに当たる。

このような「よい木」の子供を多量に増殖したり、これを足がかりに、更によい子供をつくり出そうと仕事を進めているのが育種場である。精英樹という言葉はelite tree (エリートトリー) の訳語で、外国では精英樹からできた子供が遺伝的にはきりすぐれているものだけを精英樹と呼び、子供の検定を終わっていない精英樹そのものを plus tree (プラス トリー) と呼んでいるところもある。

##### 2 精英樹の認定(指定)

実際に林木の改良をする場合に、その選抜された木を「精英樹」としてとるかどうかを決めなければならない。これつまり認定(指定)で、この判断を下す場合、人それぞれによって見方がちがいで、混乱を起すことが考えられるので、できるだけ客観的に行なえるように選抜基準が定められている。この基準に完全に合致する場合は問題はないが、個々の生産形質について著しくすぐれているような場合、例えば樹高が特に高いとか、直径が特に太いとか、枝張りが特に小さいとかというような場合には多少この基準にあわなくとも、とつてよいとされている。しかしできるだけ基準に沿って選んだ方が無難であるが多少基準に合致しなくとも、林木の素質の向上にはプラスになると思われる。

##### 3 選抜基準

人工林では量的に、天然林では質的に重きをおいて選抜するようになっており、林木育種が国の事業として発足した主な要因は木材の不足からであろうから、量に重点がおかれるのも当然であろう。天然林についても生産量の大きいものがねらいであるが、樹令に差があるため

に、最初から量に重点をおけば候補木の目星をつけるのが困難になるからである。林木育種事業指針に定められている選抜基準を抜萃すると次のようになっている。

##### A 人工林の場合

同一環境と思われる場所で遺伝質のすぐれた、ずばぬけて大きい個体を選ぶ。樹令はなるべく20年以上で、林分全体から選ぶ。

1) 生長の速さを判定するため、次の方法により周囲の木と直径ならびに材積の大きさを比較する。

イ) 選抜しようとする候補木を中心に周囲の木の毎木(最小限度15本)の直径を測定して棄却検定を行ない、つぎの基準の危険率で棄却する。スギ、カラマツ1%以下、但し樹高とか形質が特に良好な場合は5%以下、ヒノキ、アカマツ、クロマツ、エゾマツ、トドマツ、ヒバは5%以下、但し樹高、形質が特に良好なものはこの基準によらなくてもよい。

ロ) 毎木調査の結果候補木のつぎに大きい直径をもった3本の木の平均材積を求め、候補木の材積と比較してつぎの基準より大きいこと、スギ、カラマツ、50%以上但し樹高や形質が特に良好な場合は30%以上、ヒノキ、アカマツ、クロマツ、エゾマツ、トドマツ、ヒバは30%以上、但し樹高や形質が特に良好なものは周囲3大木の平均材積よりも大きければよい。

2) クローネが狭いこと、枝張数がスギは45以下、その他の樹種では55以下。

3) 以上のほかに枝が細く、枯れ上りやすいこと。幹に曲りなどがいないこと。スギでは心材が赤いこと。病虫害におかされていないこと。さし木のむづかしい樹種では相当量の種子をつけること。

##### B 天然林の場合

同時に更新したとみなされる場合は人工林の方法で選出する。しかし老令の場合は異今のものが多いので、特殊の場合を除き天然生林として取扱う。周囲のものに比較して、著しく形質がよい個体を探し出すことに重点をおく。林分中で上層を占めるもので、なるべく胸高直径25cm以上のものから選ぶ。選出はつぎの基準による。

1) 形質が特にすぐれていること。すなわち幹が通直で曲りやよぢれがないこと、材に腐朽がなく、目回り、心割れなどがいないこと、クローネが狭く、枝が細いこと、(枝張数は人工林の場合と同じ) 枝が枯れ上りやすく、枝あとが平滑に巻きこまれているもの(スギでは心材が赤いこと)などがあげられている。これを判定するために外観的に見るだけでなく、胸高位の2方向に成長錐を入れて資料をとり調査する。

2) 成長のよいこと。これを判定するために、人工林で行なったように周囲3大木との比較を行なうわけであるが、天然林の場合、候補木の被圧時代を除く直径成長量(胸高位における成長錐資料によって求める)が3本の

周囲比較木の平均値より大きく、樹高も周囲比較木の平均樹高より大きいこと、樹冠の上層を占めるもので候補木と同一径級に属するもの（同一径級とは候補木直径±10%の範囲）。

3) 以上のほかにさし木のむづかしい樹種では相当量のタネをつけ、病虫害にかかっていないもの。

#### 4 精英樹の決定

国有林の場合は営林署からの報告に基づいて、現地調査を行ない、さきに述べた選抜基準に照らして局長が決定する。民有林の場合は出先の地方事務所などからの報告に基づいて、県知事が決定することになっている。

#### 5 精英樹の保存

精英樹はさし木苗やつぎ木苗を確保するまで周囲の保護樹とともに保存する。その面積は精英樹を中心にして0.1ha以上となっている。精英樹には胸高位の上部にペンキで白帯を巻き、その上部に番号をつけ、そのほかに標柱を精英樹のそばに立て、その標柱には樹種名、営林署名（都道府県の場合は郡名または支庁名）、精英樹番号を書くようになっている。

以上で精英樹の選抜が終り、これらの精英樹からさし穂やつぎ穂を採取し、クローンの増殖がはじまるわけであるが、その解説は少し後回しにして、次回は精英樹選抜の現況について書く予定である。（渡辺操）

### ◆◆◆ 育種パトロール ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

過ぎたるはおよばざるがごとし……3、4年前新潟県のA採穂園に行った時、定植間もない採穂台木の列間に小豆とサツマイモを栽培しているのを見たが、昨年も宮城県のB採穂園で採種木（樹高：1.5m枝張り径1.0m）の株間を利用して、アカマツ苗をまき付している例を見たので、担当者の意見を聞くと「狭い土地を有効に利用する上に除草の労が省け、さらに間作物には施肥をするので採種、穂木の肥培管理にもなる」と言うことであった。肥培管理のうらづけは別としても当時一応その実行が認められ、共鳴するところがあった。

またある時、カラマツC採穂園にゆったが、ここでも同じ作業をしており、実行員が同じように説明するので「ハハアやってるな」と思って拝見におよんだが、採種木は定植後6、7年経過しているので樹高も5mはあり枝張りも広く、採種木の枝は隣りの木の枝と交差していた。さらにこの採穂園は採種木の植栽間隔が未定な時に設定したため密植されており、間伐するか枝の間引剪定をしなければならない状態であったが、採種木の下にはやはり立派（？）にアカマツの床替苗が植えられていた当然育苗技術者である実行員の意図は採種木、床替苗ともに満足な生長をはかることにあり、さらに作業工程をも考えているので、耕耘機による耕耘や薬剤散布を実行するためには、切角のびた採種木の下枝といえども作業

の邪魔になるので、きれいに剪除されていた。一方園のあちこちの採種木が枯れているので、堀りおこしてみると、根は耕耘のさい切断されて、枯死していることがわかった。床替されたマツ苗の生育ぶりはさておき、採穂園など認識のない人からみれば、限られた土地を立体的に利用した、実に優れた施業法であると賞賛されることにちがいないが、あまりにも功をあげたことで、肝じんかなめの採種木の下枝（将来の主枝となる最も大切な枝）を剪除したり、生育途上にある樹体の根を切断するなどには是非とも止めてほしいものである。しかし実行員の意図は誠に尊く学ぶところがあるが、正しい知識のうえに立った実行であってこそ、その技術が賞されるもので、やはり行き過ぎは敵につつしむべきものと思う。前者のA採穂園、B採穂園の例もこの点充分考えさせられる問題である。

採穂園設定地選定上留意すべき点……先頃機会があった青森中南部にある某採穂園をみた。この採穂園は数団地に分かれており、そのうち一番大きいものは傾斜が30度もあるところに設定されており、雪害のおそれがあるうえ、諸作業を行なうことが困難なので今後このような場所に採穂園や採種園を作ることはさげたいものと痛感した。ここに採穂園を作ったのは、この苗畑では従来からさし木をしており、成績もよいので、平坦な苗畑全部をさし木に使うことになったが、周囲に平坦な適地がなかったので、やむなく急斜面の広葉樹林を伐採して作ったものである。しかしここは積雪量が1.5mにもおよぶうえ、急斜面で雪の移動による苗木の損傷のおそれがあり、管理もいろいろ困難を伴うものと察せられるが、とりあえず雪崩防止柵を設けたり、苗木の周囲を平らにならし、雪の移動をおさえるような対策を講ずることが大切であろう。

#### 編集後記

本紙発刊について、新潟大学の船引先生、林試山形分場の高橋場長から激励のお便りを戴き、また多くの方々の思いやりあるご忠言など、深く感謝申し上げます。

今回から育種パトロールをはじめることとした。これは現地のあらさがしてなく、皆んなで考えてゆこうと言う意味なので、御理解いただきご愛読をお願いする。

また育種関係者のつながりを深めるため、名簿の発行を急いではどうかと言うことで、本号に付録としてのせたのでせいぜいご利用願いたい。

最後に皆様のご投稿、ご質問等を是非お願いしたい。

昭和42年2月1日発行

編集 東北林木育種場  
岩手県岩手郡滝沢村滝沢  
TEL 滝沢駅前 17  
印刷所 杜陵印刷

# 林木育種関係者名簿

(昭和42年1月1日現在)

## 東北林木育種場

場 長 鈴木 慶 治  
 経営課長 高 橋 直 治  
 経営係長 柴 田 三 郎  
 種苗係長 佐々木 研  
 原種課長 渡 辺 操  
 原種係長 太 田 昇  
 検定交配係長 野 口 常 介

## 東北林木育種場奥羽支場

場 長 三 宅 豊  
 経営課長 山 田 義三郎  
 経営係長 下 山 英 男  
 種苗係長 小 西 和 輔  
 原種係長 高 橋 小三郎

## 青森営林局

造林課長 畑 江 道 俊  
 種苗係長 山 形 栄之進  
 育種担当 棟 方 啓 爾

### 高石股採種園(蟹田署)

経営課長 伊 藤 昇 三  
 高石股苗畑主任 宮 崎 建 吾

### 二股スギ採種園(今別署)

経営課長 新 井 唯 夫  
 二股苗畑担当員 中 島 勝三郎

### 倉ノ沢スギ採種園(中里署)

経営課長 太 田 兵 一  
 薄市担当区主任 樋 口 忠 紀

### 大倉岳アカマツ採種園(金木署)

経営課長 岡 本 喜代二  
 金木担当区主任 田 頭 公 夫

### 奥戸スギ採種園(大間署)

経営課長 大 野 恵 造  
 奥戸担当区主任 吉 崎 四 郎

### 田名部スギ採種園(むつ署)

経営課長 葛 西 昌 一  
 斗南丘苗畑主任 柏 谷 信 一

### 横浜アカマツ採種園(横浜署)

### 檜川台カラマツ採種園(同上)

経営課長 佐 賀 福 美  
 横浜苗畑主任 伊 藤 敬 造

### 横沢アカマツ採種園(野辺地署)

経営課長 佐 藤 治三郎  
 野辺地担当区主任 三 浦 清 志

### 来満スギ採種園(三戸署)

経営課長 中 島 一 男  
 来満苗畑担当員 桜 川 正

### 煙山アカマツ採種園(盛岡署)

### 煙山カラマツ採種園(同上)

経営課長 泉 館 登三男  
 煙山苗畑主任 角 掛 万 作

煙山苗畑係員 佐々木 孝 栄

### 平蔵沢スギ採種園(同上)

経営課長 同 前  
 署造林係員 野 中 浩

### 柘沢スギ採種園(雫石署)

経営課長 藤 田 富 清  
 署造林係員 細 川 勇 治

### 大久保スギ採種園(花巻署)

経営課長 武 田 文 揚  
 署造林係員 柳 原 栄

### 北上アカマツ採種園(北上署)

経営課長 神 本 武 夫  
 横志田苗畑主任 川 村 豊

### 六本松アカマツ採種園(水沢署)

経営課長 佐々木 正 二  
 造林係長 阿 部 正

### 松草カラマツ採種園(川井署)

経営課長 石 森 斉  
 東松草担当区主任 和 田 寿

### 谷地山スギ採種園(大船渡署)

経営課長 下 沢 秀 雄  
 谷地山苗畑主任 今 野 与喜藏

### 狼巣スギ採種園(気仙沼署)

経営課長 菊 池 宗 男  
 狼巣苗畑担当員 米 倉 柁 一

### 鹿折スギ採種園(気仙沼署)

経営課長 同 前  
 鹿折担当区主任 藤 沢 伝

### 中山スギ採種園(古川署)

経営課長 阿 部 秀 吉

中山苗畑担当員 遊 佐 勇 吉

## 秋 田 営 林 局

造林課長 鈴 木 郁 雄  
 種苗係長 大 場 喜他男  
 種苗係員 諸 井 忠 明  
 “ 高 橋 勇

### 十和田振種園(十和田署)

経営課長 寺 田 重 男  
 大湯苗畑主任 鈴 木 宏 治

### 早口採種園(早口署)

経営課長 武 田 馥 治  
 岩瀬苗畑主任 斎 藤 芳 二  
 大淵岱担当区主任 加 藤 次 郎  
 大野苗畑主任 木 川 鏝 治

### 鷹巣原種苗畑(鷹巣署)

経営課長 古 瀬 崇  
 鷹巣苗畑主任 大 野 貞 雄

### 上小阿仁採種園(上小阿仁署)

経営課長 佐 藤 市 雄  
 上小阿仁苗畑主任 鈴 木 富 夫  
 五反沢担当区主任 佐 藤 金 治

### 能代採種園(能代署)

経営課長 板 坂 正 雄  
 能代苗畑主任 工 藤 広 治  
 仁綱担当区主任 田 中 甫

### 五城目採種園(五城目署)

経営課長 鶴 川 忠 雄  
 五城目苗畑主任 三ヶ田 正 則  
 寺沢担当区主任 成 田 芳 美

### 秋田採種園(秋田署)

経営課長 中 島 正 道  
 秋田苗畑主任 島 山 健 一  
 仁別担当区主任 鈴 木 敏 男

### 角館振種園(角館署)

経営課長 浅 利 芳 哉  
 角館苗畑主任 柴 田 正 行

### 大曲原種苗畑(大曲署)

経営課長 藤 井 鉄太郎  
 境苗畑主任 島 山 保 男  
 六郷担当区主任 鈴 木 仙十郎

### 酒田採種園(酒田署)

経営課長 安 部 善 雄

酒田苗畑主任 丸 藤 雄 三  
鶴岡採種園 (鶴岡署)

経営課長 工 藤 彦 蔵  
清川苗畑主任 伊 藤 文 雄

新庄採種園 (新庄署)

経営課長 水 田 富 雄  
新庄苗畑主任 渡 辺 勝 悦  
鮭川担当区主任 高 橋 輝 一

真室川採種園 (真室川署)

経営課長 石 川 洲 太  
真室川苗畑主任 高 島 巖 雄

向町採種園 (向町署)

経営課長 高 畑 幹 穂  
赤倉苗畑主任 五十嵐 正太郎

尾花沢原種苗畑 (村山署)

経営課長 工 藤 秋 良  
尾花沢苗畑主任 山 下 秀 夫

山形採種園 (山形署)

経営課長 佐 藤 金 次 郎  
永野苗畑主任 片 桐 米 夫  
永野担当区主任 松 本 光 造

前 橋 営 林 局

造林課長 平 山 三 男  
調査係長 加 辺 正 明  
" 係員 鎌 塚 修 次

村上採種園 (村上署)

経営課長 長谷川 長 三  
種苗係長 小 林 石 男

六日町採種園 (六日町署)

経営課長 小 林 久  
種苗係長 萩 野 道 夫  
塩沢苗畑主任 藤 生 久 雄

高田原種苗畑 (高田署)

経営課長 三 瓶 次 男  
造林係長 杉 田 稔  
五万戸苗畑主任 渡 部 秀 衡  
" 指導員 渾 川 源 徳

青 森 県

林務課長 滝 本 勝 夫  
造林係長 堀 江 一 麿

技 師 横 沢 直 文  
樹苗養成所

所 長 阿 部 行 夫  
技 師 成 田 平 八 郎

岩 手 県

林業課長 菊 池 輝 一 郎  
課長補佐 宮 恭  
林木育種係長 嘉 村 毅

江刺林業用原種苗畑  
主 任 川 井 正 夫

林業試験場  
技 師 照 井 隆 一

宮 城 県

林務課長 小 島 正  
造林係長 飯 淵 順  
技 師 大 友 統 一

農業試験場林業部  
技 師 太 田 勇 吉

林木育種場  
場 長 半 田 源 太 郎  
技 師 三 島 久 志  
" 曾 根 亨

山 形 県

林務課長 加 藤 貞  
造林係長 長 嶋 東 一 郎  
技 師 金 子 仙 之 助  
主 事 補 尾 関 恭 三

林木育種場  
場 長 土 岐 忠  
主 任 鈴 木 佑 一  
技 師 高 橋 弥

林業指導所  
所 長 加 藤 信 夫  
経営研究係長 今 野 敏 雄  
技 師 佐 藤 啓 祐

豊里採種園 (最上地方事務所)  
真室川採種園 ( " )

林業係長 村 高 不 二 雄  
技 師 補 黄 木 淳 夫

管 理 人 鳥 山 安 雄

新 潟 県

治山課長 五十嵐 修 三  
造林係長 瀬 賀 新 哉  
技 師 樋 口 義 毅

朝日原種苗畑三面採種園  
(岩船林業事務所)

主 任 大 竹 甚 左 工 門  
宮本原種苗畑 (中部林業事務所)

主 任 樋 口 広 衛  
高田原種苗畑 (頸城林業事務所)

主 任 南 雲 村 一  
分田第1次採種園  
(新潟林業事務所)

中条第1次 " ( " )  
主 任 豊 木 喬

田沢第1次採種園  
(魚沼林業事務所)

堀之内 " ( " )  
水沢 " ( " )

主 任 坂 井 啓 二  
林業試験場

場 長 加 治 克 己  
育種課長 稲 部 茂 樹  
技 師 本 間 英 樹

..... 人 事 異 動 .....

昭和42年1月1日付  
林業試験場東北支場育林部第1研究  
室へ

東北林木育種場  
村 井 三 郎

..... 願 望 .....

この名簿に移動があったとき  
はお手数でもご一報をお願いす  
る。(編集委員)